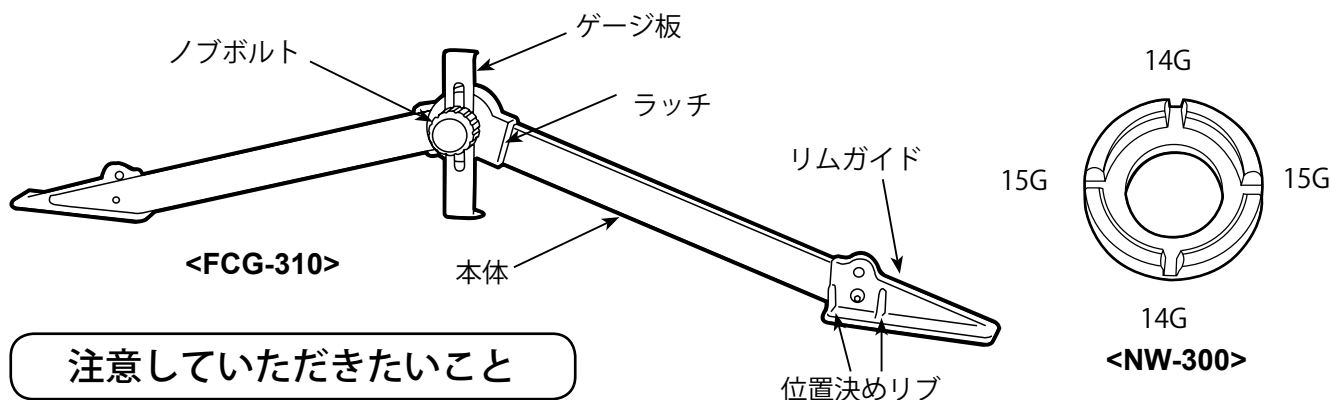


「True-Pro Combo」ホイール組立キットに付属のツールについて説明します。

FCG-310 はホイールがきちんと左右対称になっているかどうかを調べるための工具で、18～27インチ／700Cのほとんどのホイールに対して使用できます。また **NW-300** は14G / 15Gスポーク用のニップルレンチです。ご使用前にこの説明書をすべて読み、前もって作業の内容を正しく理解しておいてください。



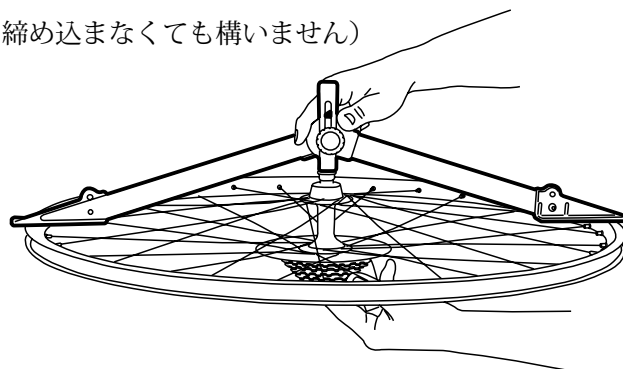
注意していただきたいこと

- ⚠ FCG-310 および NW-300 は自転車用ホイール専用です。指示されている以外の用途には使用しないでください。
- ⚠ FCG-310 は測定ゲージです。ぶついたり曲げたりしないよう丁寧に取り扱ってください。
- ⚠ FCG-310 を開閉する際に指などはさまないように注意してください。
- ⚠ NW-300 を使用するときは、ニップルの奥深くまで差し込んでから回してください。使用するときにはがたつきのないサイズを使用してください。表示サイズは目安に過ぎません。

FCG-310 の使い方

1. まずノブボルトを緩め、両手で本体を持って「へ」字型になるように開きます。
2. ラッチの内側には爪と孔とがあり、それらが噛み合うことで角度を固定します。本体を開き爪と孔とが噛み合う位置に来たら、ラッチを押しつけて固定します。
3. ゲージ板を反時計方向に回して、孔のある側が下向きになるようにします。そしてゲージ板をラッチ表面にある幅広の浅い溝にはめ込みます。
4. ノブボルトを締め込みます。(今はまだそれほど強く締め込まなくても構いません)

- ⚠ ゲージ板が溝にきちんとはまっていないままでは正しい測定が行えません。またこのときにノブボルトを強く締め付けるとゲージ板が曲がってしまいます。ゲージ板は交換ができませんのでくれぐれもご注意ください。



5. 図AのようにFCG-310をホイールにあてがいます。リムガイドが両方ともリムに接している状態を保ったまま、ノブボルトを緩め、ゲージ板をゆっくりと下ろします。先端がハブ端に接したらノブボルトを締め付けて固定します。 (図A)

- ⚠ このとき以下の点を確認してください。
 1. リムガイドは両方ともリム側面に接触していること。
 2. ハブ芯がゲージ板の孔の中を通り、ゲージ板の先端がハブ側面に密着していること。

6. そのままホイールをひっくり返し、反対側にもFCG-310をあてがいます。このときゲージ板の位置は変えないでください。

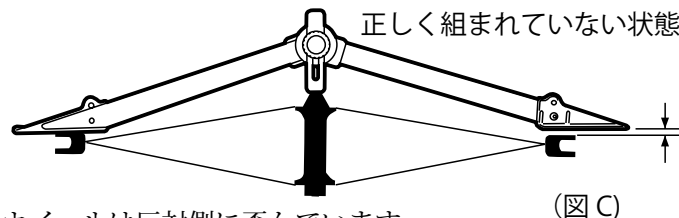
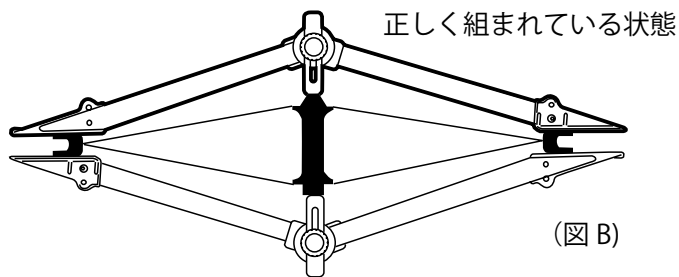
このときもし3点（両方のリムガイドとゲージ板の先端）とも同時に密着していたとしたら、そのホイールは正しく左右対称に組まれていることになります。（図B）

しかし3点のうち1カ所でも浮いていたりしている場合には、そのホイールは調整が必要です。（図C）

もしゲージ板がハブに密着しているにも関わらずリムガイドのひとつが浮いている場合は、そのホイールは反対側に歪んでいます。

もしリムガイドが両方ともリムに密着しているにも関わらずゲージ板が浮いてしまっている場合は、そのホイールは手前側に歪んでいます。

ホイールを振れ取り台にセットして歪みを修正してください。なお詳しい振れ取りのしかたについては振れ取り台の取扱説明書を参照してください。

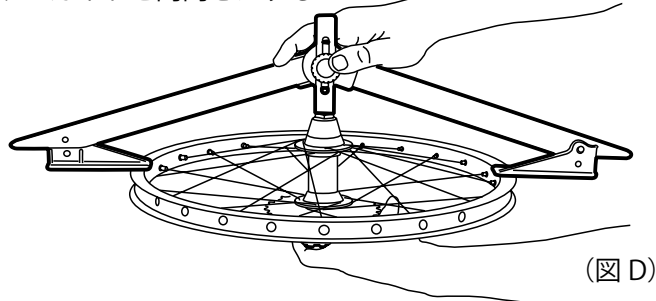


! より正しい結果を得るために、ホイール上の数カ所で測定するようにしてください。

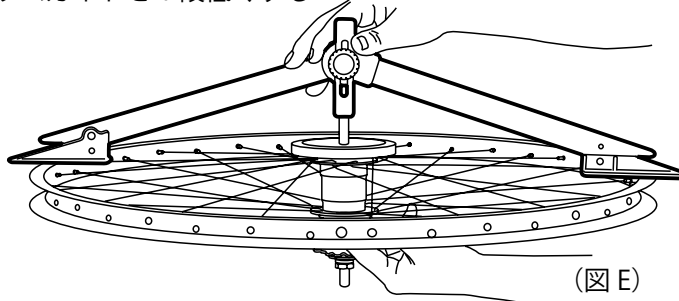
便利な機能について

FCG-310は標準状態のままで24～27インチ/700Cのホイールの測定ができます。さらにリムガイドの位置を付け替えることにより、18インチ以上の小径ホイールや、一部のDHやFRや内装変速機の付いた幅広のハブでも使用することができます。（図D & E）

<小径ホイールの場合>
リムガイドを内向きにする



<幅広ハブの場合>
リムガイドを1段低くする

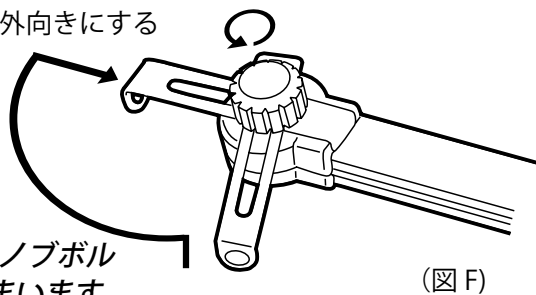


FCG-310の折りたたみのしかた

- 1) ノブボルトを一杯に緩める、
- 2) ラッチを引き剥がすようにして分離させる、
- 3) ゲージ板を孔が外向きになるように回転させる、
- 4) 本体を折りたたむ、という手順で行ないます。

! ゲージ板の孔がまだ内側を向いている状態では絶対にノブボルトを締め込まないでください。ゲージ板が曲がってしまいます。ゲージ板は交換できませんので注意してください。

孔は必ず外向きにする



NW-300の使い方

! NW-300でがたつきがある場合には無理して使わず、他のニップルレンチを使用してください。

回したいニップルの下端にレンチをあてがい、いちばん奥まで差し込みます。少し左右に回してみてもがたつきのない方のサイズを選んでください。レンチはゆっくりと回し、最大でも1/2回転までしか一度に回してはいけません。途中までしか差し込まなかったり、ニップルの上端付近を回そうとしたり、誤ったサイズを使用すると、ニップルをなめてしまい回せなくなってしまいます。一度なめたら二度と作業ができなくなりますので注意してください。